教員 FD 活動レポート（基礎教育）R2　後期（英語）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育自己点検・評価専門委員会

以下、各選択肢の右に**該当クラス数（全回答数に対する回答率）**を記します。

A　(Q1～Q10)：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の１～４のうち該当する数字を選んでください。　【1.あてはまる　2.ややあてはまる　3.あまりあてはまらない　4.あてはまらない】

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1.　33(81%)　　2.　7(17%)　　3.　0(0%)　　4.　0(0%)　　未回答　1(2%)

Q2.学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1.　29(71%)　　2.　10(24%)　　3.　0(0%)　　4.　0(0%)　　未回答　2(5%)

Q3.話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1.　23(56%)　　2.　17(42%)　　3.　0(0%)　　4.　0(0%)　　未回答　1(2%)

Q4.重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1.　28(68%)　　2.　11(27%)　　3.　0(0%)　　4.　0(0%)　　未回答　2(5%)

Q5.学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 23 (56%)　　2.　14(35%)　　3.　1(2%)　　4.　0(0%)　　未回答　3(7%)

Q6.受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1.　32(78%)　　2.　8(20%)　　3.　0(0%)　　4.　0(0%)　　未回答　1(2%)

Q7.受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1.　23(56%)　　2.　17(42%)　　3.　0(0%)　　4.　0(0%)　　未回答　1(2%)

Q8.授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1.　26(63%)　　2.　13(32%)　　3.　0(0%)　　4.　0(0%)　　未回答　2(5%)

Q9.総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1.　22(54%)　　2.　18(44%)　　3.　0(0%)　　4.　0(0%)　　未回答　1(2%)

Q10.シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1.　26(63%)　　2.　11(28%)　　3.　1(2%)　　4.　0(0%)　　未回答　3(7%)

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R2　後期（英語）

B（Q11.～Q15）：ＦＤ活動についてお尋ねします。

Q11. この授業科目に関してこの１年間に取り組んだＦＤ活動を選んでください。**（複数回答可）**

1.他教員の授業参観：　11（27%）

2.学内外のＦＤ講演会等への参加：　24（59%）

3.他大学のＦＤ活動の視察：　6（15%）

4.その他：　9（22%）

Q12.今後取り組もうと考えているＦＤ活動を選んでください。**（複数回答可）**

1.他教員の授業参観：　14（34%）

2.学内外のＦＤ講演会等への参加：　24（59%）

3.他大学のＦＤ活動の視察：　9（22%）

4.その他：　9（22%）

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答：9 クラス（順不同）

1. 後学期は前学期の Webclass のみの授業から、Zoom と Webclass 併用の授業に変更したので、学生の声を聞きながら全体練習などを導入することが容易にできた。（３クラス）
2. 学生の課題へのフィードバックをよりこまめに返すことを行った。
3. 今回は、Online 授業でしたので、動画などの教材作成をしました。お陰様で動画の利点について改めて気づかせていただきました。今後も機会があれば是非利用したいと思います。（２クラス）
4. 学生の課題へのフィードバックをよりこまめに返すことを行った。（２クラス）

■参考■

・遠隔授業であったため、昨年度と異なる授業形態で実施した。（３クラス）

・昨年度は対面授業、今年度は遠隔授業だったためアプローチが全く異なった。

・Always improving details（常に細かな改善に努めている。）

5. Materials better adapted to student clinical knowledge

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このＦＤ活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。　回答：16 クラス（順不同）

1. 遠隔授業の中で、学生間のコミュニケーションの機会を作るよう努めた。（３クラス）
2. Zoom と WebClass、Google Forms 等の機能を使って様々な工夫を凝らし学生の言語活動を促した。（３クラス）
3. Speaking のクラスでしたが、online 授業ということで、学生の声を実際に聞くことができず、残念でした。次は、その点を改善していきたいと思います。
4. 他の先生の授業を参観することで、学びたい。
5. 今年度の授業はすべて遠隔オンデマンドでした。来年度も遠隔授業でしたら、リアルタイムの Zoom なども何回か取り入れたいと思います。（４クラス）
6. 「FD 活動レポートの対象となっている授業科目のみがリスト表示されます」と、説明がありましたが、学生評価の分も一緒に表示されるのは、見づらいです。（３クラス）
7. Met student needs.　Negatively affected by corona interruptions.

（学生のニーズに対応した。コロナによる授業の中断が悪影響を及ぼしたと思う。）

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R2　後期（英語）

Q15.ＦＤ活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル：0 件

C（Q16～Q18）：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい：　40（98%）　2.いいえ：　0（0%）　未回答：　1（2%）

＜Q16 で「はい」の方は Q17～18 にお答えください＞

Q17.下記のどの点を重視しましたか。**（複数回答可）**

1.聞いて理解する：　32（83%）

2.読んで理解する：　39（98%）

3.自分の考えをまとめて話す：　31（78%）

4.自分の考えを文章にまとめる：　31（78%）

5.討論する：　21（53%）

6.皆の前でプレゼンテーションする：　16（40%）

7.その他：　10（25%）

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答：16 クラス（順不同）

1. Zoom のブレイクアウトルームを利用して、限定的ではあったものの、英語によるコミュニケーション練習を行った。（３クラス）
2. 様々なリソースから、学生の専門に関連する記事を探し、グループメンバーと共有する（語注作成）。その後、グループに向けて詳しく解説し、ディスカッションを行う。（２クラス）
3. 今回は、コロナ渦の中で、あまり人前で声を出さずに生活しておりますが、学生は、動画に合わせて単語の練習や、日本語を聞いて英語を読む、または英語を聞いて日本語で声を出すという作業で、少しはストレス発散になったのではないでしょうか。また、学生からのメールにはできるだけ返信することが重要と考えて対応しました。（２クラス）
4. 個々の学生が英文記事を見つけてきて、グループメンバーと共有し、読解を行ったうえで討論を行う活動。自分の考えをまとめて、300 words のエッセイを作成する活動。
5. 遠隔授業でしたので、プレゼンテーションは事前に録画し WebClass にアップロードするように指示をしました。お互いのプレゼンテーションを聞き、コメントをしてもらいました。（４クラス）
6. Web 掲示板を利用したピアラーニングを実施した。（２クラス）
7. 個々の学生がクラスのメンバーに紹介する英文記事(authentic)を見つけてきて、グループメンバーと共有し、読解を行ったうえで討論を行う学習を行っている。
8. Groupwork, student-student communication, ability to think and communicate in real time

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R2　後期（英語）

D（Q19～Q22）：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい：　5（12%）　2.いいえ：　32（78%）　未回答：　4（10%）

＜Q19 で「はい」の方は Q20～Q22 にお答えください＞

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.１回～５回：　5（100%）　2.６回～１０回：　0（0%）　3.１１回～１５回：　0（0%）

未回答：　0（0%）

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。**（複数回答可）**

1.歴史・文化：　3（60%）　2.政治・経済・産業：　0（0%）

3.自然環境・フィールド体験：　2（40%）　4.その他：　0（0%）

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。　回答：1 クラス（順不同）

1. 地元紹介。

E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全 15 回の授業で 3 回取り入れた場合（1 回の授業における割合は問いません）　→　20%

1.0%：　0（0%）　2.10%以内：　0（0%）　3.10%～20%：　0（0%）

4.21%～30%：　2（5%）　5.31%～40%：　7（17%）　6.41%～50%：　2（5%）

7.51%～60%：　3（7%）　8.61%～70%：　3（7%）　9.71%～80%：　10（24%）

10.81%～90%：　3（7%）　11.91%～100%：　10（24%）

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。**（複数チェック可）**

1.少人数（１０人程度）：　1（5%）　2.双方向（対話・討論）：　21（51%）

3.グループワーク：　23（56%）　4.フィールド型：　1（2%）　5.メディア活用：　23（56%）

6.TA 活用：　0（0%）　7.その他：　12（29%）

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R2　後期（英語）

F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。**（複数チェック可）**

1.授業を英語のみで行っている：　9（22%）

2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている：　24（59%）

3.英語のみで板書している：　6（15%）

4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している：　10（24%）

5.英語のみの教材・資料を使用している：　10（24%）

6.一部英語併記の教材・資料を使用している：　20（49%）

7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している：　15（37%）

8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している：　12（29%）

9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している：　32（78%）

10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している：　13（32%）

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R2　後期（保健・体育）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育自己点検・評価専門委員会

以下、各選択肢の右に**該当クラス数（全回答数に対する回答率）**を記します。

A　(Q1～Q10)：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の１～４のうち該当する数字を選んでください。　【1.あてはまる　2.ややあてはまる　3.あまりあてはまらない　4.あてはまらない】

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 0(0%)　2.　0(0%)　3.　0(0%)　4.　2(100%)　未回答　0(0%)

Q2.学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1.　0(0%)　2.　1(50%)　3.　1(50%)　4.　0(0%)　未回答　0(0%)

Q3.話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1.　1(50%)　2.　1(50%)　3.　0(0%)　4.　0(0%)　未回答　0(0%)

Q4.重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1.　0(0%)　2.　2(100%)　3.　0(0%)　4.　0(0%)　未回答　0(0%)

Q5.学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1.　0(0%)　2.　0(0%)　3.　2(100%)　4.　0(0%)　未回答　0(0%)

Q6.受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1.　1(50%)　2.　1(50%)　3.　0(0%)　4.　0(0%)　未回答　0(0%)

Q7.受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1.　0(0%)　2.　0(0%)　3.　2(100%)　4.　0(0%)　未回答　0(0%)

Q8.授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1.　0(0%)　2.　0(0%)　3.　2(100%)　4.　0(0%)　未回答　0(0%)

Q9.総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1.　0(0%)　2.　0(0%)　3.　1(50%)　4.　1(50%)　未回答　0(0%)

Q10.シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1.　0(0%)　2.　0(0%)　3.　0(0%)　4.　2(100%)　未回答　0(0%)

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R2　後期（保健・体育）

B（Q11.～Q15）：ＦＤ活動についてお尋ねします。

Q11. この授業科目に関してこの１年間に取り組んだＦＤ活動を選んでください。**（複数回答可）**

1.他教員の授業参観：　0（0%）

2.学内外のＦＤ講演会等への参加：　2（100%）

3.他大学のＦＤ活動の視察：　0（0%）

4.その他：　0（0%）

Q12.今後取り組もうと考えているＦＤ活動を選んでください。**（複数回答可）**

1.他教員の授業参観：　0（0%）

2.学内外のＦＤ講演会等への参加：　2（100%）

3.他大学のＦＤ活動の視察：　0（0%）

4.その他：　0（0%）

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答：0 クラス（順不同）

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このＦＤ活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答：0 クラス（順不同）

Q15.ＦＤ活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル：0 件

C（Q16～Q18）：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい：　0（0%）　2.いいえ：　2（100%）　未回答：　0（0%）

＜Q16 で「はい」の方は Q17～18 にお答えください＞

Q17.下記のどの点を重視しましたか。**（複数回答可）**

1.聞いて理解する：　0（0%）

2.読んで理解する：　0（0%）

3.自分の考えをまとめて話す：　0（0%）

4.自分の考えを文章にまとめる：　0（0%）

5.討論する：　0（0%）

6.皆の前でプレゼンテーションする：　0（0%）

7.その他：　0（0%）

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答：0 クラス（順不同）

D（Q19～Q22）：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい：　0（0%）　2.いいえ：　2（100%）　未回答：　0（0%）

＜Q19 で「はい」の方は Q20～Q22 にお答えください＞

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.１回～５回：　0（0%）　2.６回～１０回：　0（0%）　3.１１回～１５回：　0（0%）

未回答：　0（0%）

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。**（複数回答可）**

1.歴史・文化：　0（0%）　2.政治・経済・産業：　0（0%）

3.自然環境・フィールド体験：　0（0%）　4.その他：　0（0%）

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答：0 クラス（順不同）

E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全 15 回の授業で 3 回取り入れた場合（1 回の授業における割合は問いません）　→　20%

1.0%：　0（0%）　2.10%以内：　0（0%）　3.10%～20%：　0（0%）

4.21%～30%：　0（0%）　5.31%～40%：　2（100%）　6.41%～50%：　0（0%）

7.51%～60%：　0（0%）　8.61%～70%：　0（0%）　9.71%～80%：　0（0%）

10.81%～90%：　0（0%）　11.91%～100%：　0（0%）

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。**（複数チェック可）**

1.少人数（１０人程度）：　0（0%）　2.双方向（対話・討論）：　0（0%）

3.グループワーク：　0（0%）　4.フィールド型：　0（0%）　5.メディア活用：　0（0%）

6.TA 活用：　0（0%）　7.その他：　2（100%）

F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。**（複数チェック可）**

1.授業を英語のみで行っている：　0（0%）

2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている：　0（0%）

3.英語のみで板書している：　0（0%）

4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している：　0（0%）

5.英語のみの教材・資料を使用している：　0（0%）

6.一部英語併記の教材・資料を使用している：　0（0%）

7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している：　0（0%）

8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している：　0（0%）

9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している：　0（0%）

10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している：　0（0%）

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R2　後期（専門基礎）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育自己点検・評価専門委員会

以下、各選択肢の右に**該当クラス数（全回答数に対する回答率）**を記します。

A　(Q1～Q10)：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の１～４のうち該当する数字を選んでください。　【1.あてはまる　2.ややあてはまる　3.あまりあてはまらない　4.あてはまらない】

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 0 (0%)　2.　1(50%)　3.　1(50%)　4.　(%)　未回答　0(0%)

Q2.学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 2 (100%)　2.　0(0%)　3. 0 0(%)　4.　0(0%)　未回答　0(0%)

Q3.話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1.　2(100%)　2.　0(0%)　3.　0(0%)　4.　0(0%)　未回答　0(0%)

Q4.重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1.　2(100%)　2.　0(0%)　3.　0(0%)　4.　0(0%)　未回答　0(0%)

Q5.学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1.　2(100%)　2.　0(0%)　3.　0(0%)　4.　0(0%)　未回答　0(0%)

Q6.受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1.　2(100%)　2.　0(0%)　3.　0(0%)　4.　0(0%)　未回答　0(0%)

Q7.受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1.　1(50%)　2.　0(0%)　3.　1(50%)　4.　0(0%)　未回答　0(0%)

Q8.授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1.　2(100%)　2.　0(0%)　3.　0(0%)　4.　0(0%)　未回答　0(0%)

Q9.総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1.　2(100%)　2.　0(0%)　3.　0(0%)　4.　0(0%)　未回答　0(0%)

Q10.シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1.　2(100%)　2.　0(0%)　3.　0(0%)　4.　0(0%)　未回答　0(0%)

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R2　後期（専門基礎）

B（Q11.～Q15）：ＦＤ活動についてお尋ねします。

Q11. この授業科目に関してこの１年間に取り組んだＦＤ活動を選んでください。（複数回答可）

1.他教員の授業参観：　0（0%）

2.学内外のＦＤ講演会等への参加：　1（50%）

3.他大学のＦＤ活動の視察：　0（0%）

4.その他：　0（0%）

Q12.今後取り組もうと考えているＦＤ活動を選んでください。（複数回答可）

1.他教員の授業参観：　0（0%）

2.学内外のＦＤ講演会等への参加：　1（50%）

3.他大学のＦＤ活動の視察：　0（0%）

4.その他：　0（0%）

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答：0 クラス（順不同）

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このＦＤ活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答：1 クラス（順不同）

1. コロナウイルス感染症により、対面で行う授業とのマッチングで苦労した。今後リモートによる授業についても準備しておきたいと考える。

Q15.ＦＤ活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル：0 件

C（Q16～Q18）：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい：　1（50%）　　2.いいえ：　1（50%）　　未回答：　0（0%）

＜Q16 で「はい」の方は Q17～18 にお答えください＞

Q17.下記のどの点を重視しましたか。（複数回答可）

1.聞いて理解する：　1（100%）

2.読んで理解する：　1（100%）

3.自分の考えをまとめて話す：　1（100%）

4.自分の考えを文章にまとめる：　1（100%）

5.討論する：　0（0%）

6.皆の前でプレゼンテーションする：　1（100%）

7.その他：　0（0%）

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答：1 クラス（順不同）

1. 授業の中で日常の話題等からテーマを決めて、1 分間スピーチを全学生に実践させた。

D（Q19～Q22）：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい：　1（50%）　　2.いいえ：　1（50%）　　未回答：　0（0%）

＜Q19 で「はい」の方は Q20～Q22 にお答えください＞

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.１回～５回：　0（0%）　　2.６回～１０回：　1（100%）　　3.１１回～１５回：　0（0%）

未回答：　0（0%）

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。（複数回答可）

1.歴史・文化：　1（100%）　　2.政治・経済・産業：　0（0%）

3.自然環境・フィールド体験：　0（0%）　　4.その他：　0（0%）

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答：0 クラス（順不同）

E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全 15 回の授業で 3 回取り入れた場合（1 回の授業における割合は問いません）　→　20%

1.0%：　0（0%）　2.10%以内：　0（0%）　3.10%～20%：　0（0%）

4.21%～30%：　0（0%）　5.31%～40%：　0（0%）　6.41%～50%：　0（0%）

7.51%～60%：　0（0%）　8.61%～70%：　1（50%）　9.71%～80%：　0（0%）

10.81%～90%：　0（0%）　11.91%～100%：　1（50%）

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。**（複数チェック可）**

1.少人数（１０人程度）：　0（0%）　2.双方向（対話・討論）：　1（50%）

3.グループワーク：　0（0%）　4.フィールド型：　0（0%）　5.メディア活用：　2（100%）

6.TA 活用：　0（0%）　7.その他：　0（0%）

F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。**（複数チェック可）**

1.授業を英語のみで行っている：　0（0%）

2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている：　0（0%）

3.英語のみで板書している：　0（0%）

4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している：　0（0%）

5.英語のみの教材・資料を使用している：　0（0%）

6.一部英語併記の教材・資料を使用している：　1（50%）

7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している：　0（0%）

8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している：　0（0%）

9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している：　1（50%）

10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している：　0（0%）

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R2　後期（専門教育入門セミナー）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育自己点検・評価専門委員会

以下、各選択肢の右に**該当クラス数（全回答数に対する回答率）**を記します。

A　(Q1～Q10)：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の１～４のうち該当する数字を選んでください。　【1.あてはまる　2.ややあてはまる　3.あまりあてはまらない　4.あてはまらない】

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1.　35(76%)　　2.　10(22%)　　3.　1(2%)　　4.　0(0%)　　未回答　0(0%)

Q2.学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1.　32(70%)　　2.　14(30%)　　3.　0(0%)　　4.　0(0%)　　未回答　0(0%)

Q3.話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1.　32(70%)　　2.　13(28%)　　3.　0(0%)　　4.　0(0%)　　未回答　1(2%)

Q4.重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1.　33(72%)　　2.　12(26%)　　3.　0(0%)　　4.　0(0%)　　未回答　1(2%)

Q5.学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1.　29(63%)　　2.　15(33%)　　3.　0(0%)　　4.　0(0%)　　未回答　2(4%)

Q6.受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1.　31(67%)　　2.　13(28%)　　3.　2(4%)　　4.　0(0%)　　未回答　0(0%)

Q7.受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1.　25(54%)　　2.　17(37%)　　3.　2(4%)　　4.　1(2%)　　未回答　1(2%)

Q8.授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1.　25(54%)　　2.　15(33%)　　3.　5(11%)　　4.　1(2%)　　未回答　0(0%)

Q9.総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1.　29(63%)　　2.　16(35%)　　3.　1(2%)　　4.　0(0%)　　未回答　0(0%)

Q10.シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1.　33(72%)　　2.　10(22%)　　3.　2(4%)　　4.　0(0%)　　未回答　1(2%)

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R2　後期（専門教育入門セミナー）

B（Q11.～Q15）：ＦＤ活動についてお尋ねします。

Q11. この授業科目に関してこの１年間に取り組んだＦＤ活動を選んでください。**（複数回答可）**

1.他教員の授業参観：　5（11%）

2.学内外のＦＤ講演会等への参加：　28（61%）

3.他大学のＦＤ活動の視察：　0（0%）

4.その他：　8（17%）

Q12.今後取り組もうと考えているＦＤ活動を選んでください。**（複数回答可）**

1.他教員の授業参観：　15（33%）

2.学内外のＦＤ講演会等への参加：　30（65%）

3.他大学のＦＤ活動の視察：　2（4%）

4.その他：　3（7%）

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答：15 クラス（順不同）

1. オムニバス科目なので、学生による授業評価がどの教員に向けられたものかの把握が難しく、個々の教員としては授業評価に基づく改善がしにくい。
2. Better explanation of assignment given to students.　（課題についてきちんと説明した。）
3. 内容を簡単にした。
4. 受講者にわかりやすい声で講義すること。
5. 受講した学生と意見交換しながら内容を改善した。
6.. 遠隔による授業を含んだ活動をしなければならなかったので、昨年度以上にコーパスの活用を中心に授業を展開できた。
7. 専門性のある情報検索講座 2 回では、首相官邸サイトの府省串刺し検索のシステムに改善を申し入れ、改善があった（幸せ！）ため、新しい検索システムの使い方を修正し、その効果を再検討した。
8. 説明を一層工夫した。
9. 対面式の授業をオンラインで行った。
10. 学生同士が対面で、よりコミュニケーションが取れるよう配慮した。
11. コロナ禍で予定していた研究公開などが次々に中止となり、代替措置を講ずることに悪戦苦闘した。しかし、学生の実態に即した措置を適切に講じることができた。
12. ルーブリック評価基準の目標達成度を、より適切に評価できるよう修正した。
13. 授業内容をオンライン化した。 後期担当講義もオンライン形式で実施されることを念頭に、リモート形式による発表やディスカッションを行うための技術の習得を念頭においた指導を行った。
14. 今年度は昨年度に引き続き、宮崎の医療や人間の多様性の理解、医療における倫理上の課題の明確化、観察に基づく推論のスキルについて、新型コロナウィルス感染拡大防止に注意を払い、制限がある中でもグループワークや学生同士のディスカッション、ロールプレイなどの手法を用いて学びを深めた。宮崎の医療においては、変化する状況をふまえ、今年度は新型コロナウィスル感染症も含めた「災害」をテーマに授業を展開した。
15. オンラインで不慣れだったが、概ね良好に行うことができた。

■参考■

・毎年 100%の力を入れて授業をしています。

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R2　後期（専門教育入門セミナー）

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このＦＤ活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。　　回答：15 クラス（順不同）

1. 今年度は例年までと講義方法が変わりオンデマンドとなったため、教材をオンデマンド用に各所修正して、オンデマンドでも学修しやすくした。
2. 専門教育入門セミナーの出席状況は、学科対応科目の唯一の対面講義だったためか比較的良好であった。レポートに関して、出題者が要求していることに答えてない（課題が理解できていない？）と思われるものがあった。これらの学生には低年次での指導が必要であると思われる。
3. This questionnaire does not consider online teaching we had to do in the 2020 budget year.
（このアンケートは、2020 年に行わなければならなかったオンライン教育について考慮されていないと思う。）
4. 体調が悪く全部は予定していたことができなかった。
5. 学生のパソコンの操作力の個人差に対する見通しが甘かった。
6. 遠隔授業のため、レポートによる学生の反応を次の回に反映するのが時間的に厳しかった。その背景には学生に課されるレポート等の課題の「総量管理」が無いため、10 月から 11 月、そして僕の担当する 12 月には学生の疲れが感じられ、レポートの締切りを翌週授業の前日 18 時と余裕を大きくとる体制を敷いたが、授業担当者としてそれを翌日に活用することが困難だった。
7. 今回は遠隔授業のため、直接学生の顔を見て反応を確かめながらの授業ができなかったことが残念です。
8. Zoom の操作に手こずった。
9. 県教委との連携という点において、学生らには満足させられる学びを提供できていると考えている。反省点は、コロナ禍において中止となった研究公開などの代替措置に関し、学生との日程調整で何度もメールの送受信により迷惑をかけた点である。予定していた 15 回をきちんと果たせるように努めてきたが、このような状況下にて学生によってはストレスを感じているのではないかと心配している。
10. 課題にもっと興味を引くような工夫が必要であった。
11. 遠隔授業が初めてだったので、準備に多くの時間を取られたが WebClass を利用したレポートの提出や、Zoom を使った発表会の準備・発表を行うことができた。
12. コロナにより、企業見学が実施できなかったため内容を一部変更した。
13. 対面授業においては、PC 上で実施可能なことと、教室や実習室でなければできないことを整理して、PC 上でできることは、事前学習または復習として自宅での課題とし、学生が大学にいる時間を有効に使用するように工夫した。
14. 来年度もオンラインであれば改善すべきは改善したい。
15. 担当の科目はオムニバス科目で、私は 1 コマのみ担当しており、コーディネーターでもありません。そこで、設問の例えば問 19, 20, 23 あたりの、「15 コマの講義全体に対する統計的割合」などは、回答できません。またその他の質問項目についても、自分の担当した 1 コマのみについて記入しました。何か入力しないといけなそうだったのでテキトウに記入しましたが、このアンケートの仕組み自体に何らかの工夫が 必要だと思いました。例えば成績入力担当者にのみアンケート記入を求めるなどが考えられます。ご検討よろしくお願いします。

Q15.ＦＤ活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル：1 件

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R2　後期（専門教育入門セミナー）

C（Q16～Q18）：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい：　41（89%）　　2.いいえ：　5（11%）　　未回答：　0（0%）

＜Q16 で「はい」の方は Q17～18 にお答えください＞

Q17.下記のどの点を重視しましたか。（複数回答可）

1.聞いて理解する：　22（54%）

2.読んで理解する：　12（29%）

3.自分の考えをまとめて話す：　26（63%）

4.自分の考えを文章にまとめる：　28（68%）

5.討論する：　14（34%）

6.皆の前でプレゼンテーションする：　21（51%）

7.その他：　1（2%）

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答：12 クラス（順不同）

1. 研究室訪問による少人数グループでの質疑応答。
2. 3 年生の科目（入門セミナーII）の発表会に出席させ、発表内容、発表技術に関するレポートを提出させた。
3. Teaching how to make a scientific presentation.　（科学的なプレゼンテーションを行う方法を教えること。）
4. 「社会系分野に適格な Web 情報収集←→授業開発」の相互的に前進の手技を自覚させる。
5. 地理的サバイバルゲームを行って、学問としての地理学の取り組み方、地域の見方、生き延びるための基礎知識などについて極めて実践的な授業を行っている。
6. グループで議論する。
7. 自己の学びについてレポートにまとめ、発表する機会を ZOOM 等で実施している。また、その発表を受けて感じたことを述べさせるなど、発展的に関わらせている。
8. ５名程度の小グループ内で座長と発表者という役割を与え、発表会の進行を学生達みずからが仕切り、また、質疑応答をさせるという課題を与えた。
9. Zoom のブレイクアウトルームを利用して 7 人程度のグループで、パワーポイントファイル作成を行わせた。また、そのファイルを使ってクラス全員にプレゼンテーションを行わせた。
10. グループ単位で調べた内容をまとめて発表スライドやポスターにまとめ上げさせた。また、最後に全体でポスター発表会を実施した。
11. 他者に自分の考えを伝え、異なる意見をまとめる過程を重視している。
12. 文章を用いたコミュニケーション力を鍛える授業が中心となった。

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R2　後期（専門教育入門セミナー）

D（Q19～Q22）：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい：　26（57%）　　2.いいえ：　19（41%）　　未回答：　1（2%）

＜Q19 で「はい」の方は Q20～Q22 にお答えください＞

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.１回～５回：　23（88%）　　2.６回～１０回：　2（8%）　　3.１１回～１５回：　1（4%）

未回答：　0（0%）

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。（複数回答可）

1.歴史・文化：　7（27%）　　2.政治・経済・産業：　13（50%）

3.自然環境・フィールド体験：　14（54%）　　4.その他：　2（8%）

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。　回答：6 クラス（順不同）

1. 県内の企業、公設研究機関に講師を依頼し、講義を実施した。
2. 県職員を講師に招き，専門分野に関する産業の現状，口蹄疫発生時の状況，対応などの紹介，解決すべき課題など提示頂き，自分の考えを文章にまとめさせた。
3. 上述のとおり、地理的サバイバルゲームを行って、学問としての地理学の取り組み方、地域の見方、生き延びるための基礎知識などについて極めて実践的な授業を行っている。なお、本演習はオムニバス授業のため、報告者の授業担当は 2/15 時間となっている。
4. 五ヶ瀬町教委との連携（ZOOM による講演）。県生涯学習課による講演（ZOOM による講演）及び意見交換会の実施。西米良村小中学校授業研究会（研究公開）にオンライン参加。
5. 個人ごとに選択した宮崎地域に関連するテーマについて調査し、発表する。
6, 今年度は、1 年生を対象に清武キャンパス地区周辺で災害が起こった場合に、大学を避難所として活用するとしたら、どのような避難所を企画するかというテーマで、清武地区の人口動態や地区の避難所、宮崎県の HP を活用して災害支援の方法等を調べ、まとめる課題に取り組んでもらった。

E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全 15 回の授業で 3 回取り入れた場合（1 回の授業における割合は問いません）　→　20%

1.0%：　4（9%）　2.10%以内：　5（11%）　3.10%～20%：　5（11%）

4.21%～30%：　4（9%）　5.31%～40%：　3（7%）　6.41%～50%：　2（4%）

7.51%～60%：　5（11%）　8.61%～70%：　3（7%）　9.71%～80%：　3（7%）

10.81%～90%：　5（11%）　11.91%～100%：　7（15%）

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。**（複数チェック可）**

1.少人数（１０人程度）：　24（57%）　2.双方向（対話・討論）：　27（64%）

3.グループワーク：　20（48%）　4.フィールド型：　5（12%）　5.メディア活用：　16（38%）

6.TA 活用：　3（7%）　7.その他：　1（2%）

F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。**（複数チェック可）**

1.授業を英語のみで行っている：　3（7%）

2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている：　5（11%）

3.英語のみで板書している：　0（0%）

4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している：　4（9%）

5.英語のみの教材・資料を使用している：　1（2%）

6.一部英語併記の教材・資料を使用している：　7（15%）

7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している：　1（2%）

8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している：　3（7%）

9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している：　2（4%）

10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している：　1（2%）

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R2　後期（現代社会の課題）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育自己点検・評価専門委員会

以下、各選択肢の右に**該当クラス数（全回答数に対する回答率）**を記します。

A　(Q1～Q10)：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の１～４のうち該当する数字を選んでください。　【1.あてはまる　2.ややあてはまる　3.あまりあてはまらない　4.あてはまらない】

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1.　13 (65%)　　2.　7(35%)　　3.　0(0%)　　4.　0(0%)　　未回答　0(0%)

Q2.学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1.　9(45%)　　2.　11(55%)　　3.　0(0%)　　4.　0(0%)　　未回答　0(0%)

Q3.話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1.　12(60%)　　2.　8(40%)　　3.　0(0%)　　4.　0(0%)　　未回答　0(0%)

Q4.重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1.　13(65%)　　2.　6(30%)　　3.　1(5%)　　4.　0(0%)　　未回答　0(0%)

Q5.学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1.　12(60%)　　2.　8(40%)　　3.　0(0%)　　4.　0(0%)　　未回答　0(0%)

Q6.受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1.　12(60%)　　2.　8(40%)　　3.　0(0%)　　4.　0(0%)　　未回答　0(0%)

Q7.受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1.　11(55%)　　2.　7(35%)　　3.　2(10%)　　4.　0(0%)　　未回答　0(0%)

Q8.授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1.　11(55%)　　2.　5(25%)　　3.　4(20%)　　4.　0(0%)　　未回答　0(0%)

Q9.総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1.　9(45%)　　2.　11(55%)　　3.　0(0%)　　4.　0(0%)　　未回答　0(0%)

Q10.シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1.　13(65%)　　2.　7(35%)　　3.　0(0%)　　4.　0(0%)　　未回答　0(0%)

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R2　後期（現代社会の課題）

B（Q11.～Q15）：ＦＤ活動についてお尋ねします。

Q11. この授業科目に関してこの１年間に取り組んだＦＤ活動を選んでください。**（複数回答可）**

1.他教員の授業参観：　1（5%）

2.学内外のＦＤ講演会等への参加：　16（80%）

3.他大学のＦＤ活動の視察：　1（5%）

4.その他：　5（25%）

Q12.今後取り組もうと考えているＦＤ活動を選んでください。**（複数回答可）**

1.他教員の授業参観：　10（50%）

2.学内外のＦＤ講演会等への参加：　16（80%）

3.他大学のＦＤ活動の視察：　4（20%）

4.その他：　3（15%）

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答：6 クラス（順不同）

1. 説明を一層工夫した。1 グループの人数を原則 4 人とした。
2. 本年度は対面授業ができなかったため、WebClass での資料配付や動画視聴の提供以外に、ブレイクアウトセッションを使ったグループ討論と、WebClass のチャットと掲示板を活用してグループでのテーマ設定と発表回準備を行い、発表回当日では、発表と並んでグループ発表のコンテスト・グループ内相互評価・自己評価を取り入れた。
3. 遠隔授業にともなう改善。厳格な出席確認、授業への集中、高い出席率、小テスト回答へのコミットメント、質疑応答の時間の増大、リーディングアサインメントによる予習、グループディスカッションやディベートの時間拡大、レポートの質など。
4. 昨年度の評価というよりも、コロナ対応、遠隔対応での試行錯誤を行った。（２クラス）
5. 本年度は Webclass を用いたオンデマンド型での講義を実施した。レポート提出も時間をかけて作成して提出できるように、Webclass 上で行った。
6. 改善かどうかはわからないが、授業中に行う簡単な実験が高評価であったので、Zoom でのオンライン授業となったが、学生１人１人に体験実験用の道具を配付し、それぞれで作業を行わせるようにした。

■参考■

・昨年の対面授業とは，完全に違う形態の遠隔授業であったので，一概に比較はできない。毎回 100%の力を注いで授業を担当しています。

・昨年度の授業評価をどのように確認すべきかがわかりません。

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このＦＤ活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。　　回答：11 クラス（順不同）

1. 学問が，単に崇高な理論を振りかざすだけでなく，ごく身近な物に，そのネタがある。学生自身の身の回りにあるおもしろいことものを発見してもらう授業を心がけています。
2. コロナ禍での Zoom によるはじめての授業のため試行錯誤が続いたが、予想以上にうまく対応できたのではないかと思う（特に Zoom でのグループワークの実践）。状況は予断を許さないが、この手法が続くようであればもう少しコミュニケーションのやり方、間の取り方、様々な面で技術を習得し、工夫したい。

3. アクティブラーニングを意識し、学生のグループワークを重ね資料作成と報告会を実施したことは特記すべき点だと考える。ZOOM に変更し当初の教育的目標の達成を危惧したが、学生はグループワークに苦労しながらも上手に対応したと考えられる。
4. zoom を使用する際に学生側のカメラのオンオフについて適切な指示が必要であった。
5. 学生が Zoom 会議を使う際に，ブレイクアウトセッションにはソフトウェアを最新にする作業ができていない学生もおり，1 度混乱した。ブレイクアウトセッションで，通信トラブルが起こった。学生の部屋の通信環境，PC の位置，ソフトの更新，「Windows 管理ツール」によるメンテなど，学生の ICT 自己管理の素養の不足が痛感された。同じ質問に幾度も答える必要があった。
6. 授業の準備をすること、進めることにこれまで以上に興味を持てた。努力の結果が学生の学習効果にあらわれ新たなやる気が出た。遠隔授業の影響が大きい。お互いが不慣れなため学生と緊張を共有できた。
7. 問 12 の設問は、複数の科目を担当している場合に、科目ごとに同じ回答を何度もしている感じがする。問 11 については、「この科目に関して」という限定があるので、厳密には同じ質問ではないのであろうが、個別の科目のためだけに FD 活動に参加するという感覚があまりなく、結果的に、複数の科目で同じ回答になってしまう。問 11、12 に関しては、科目ごとに、設問を設けずに、各教員 1 回だけ回答すればよいような方式にしていただければ有難い。
8. 今年度、すべての回を Zoom ミーティングにより実施しました。対面に比べると、盛り込める情報やワーク等のボリュームが減ってしまいましたが、スプレッドシートなどの活用により対面では得られなかった理解の深さもあったように思います。小グループのディスカッションで Zoom ブレイクアウトセッションを活用したが、随時様子を見ることができるわけではないので、円滑に話し合いが進んでいるところとそうでないところのギャップが大きい場面も見られ、グループ分けと話し合いテーマの設定に更なる工夫が必要だと感じました、
9. 昨年まで、国際協力をテーマにした終日のワークショップ（講義 4 回分に相当）を 2 回実施してきたが、今学期は新型コロナ対策のため実施できなかったため、生徒の主体的な参加の度合いが薄まったことは残念。他方で、オンライン講義の特色を生かし、国際協力の最前線で活躍する様々な人材に外部講師を依頼し、県外の人材 3 名（東京、福岡）、海外 3 名（ケニア、ガーナ、ウガンダ）から、きわめて幅広い内容の講義を得ることができた。
10, 新規開講科目をオンラインで実施するのはかなり大変だったが、以下の点は評価してよいと考えている。１．学部をまたぐ授業であることから、1 回目の課題として自己紹介 PPT を作成させ、2 回目にはそれを使って全員が自己紹介した。これは次の 2 につなげた成果である。２．毎回、授業の最初の時間に、その日の授業内容に関連したことなどをテーマに 3～4 人程度のグループ（オンライン上、顔出し）でディスカッションする時間を設けた。学生たちからも、他学部の友人ができたりしてよかった、と評価を得ている。３．教科書とした書籍は、他大学の教員と自身とが主として作成し、2020 年 6 月に出版されたものであった。その教員も偶然ほぼ同じ時間帯に同じテキストを用いた授業を行っていたことから、大学を超えたオンライン合同授業を実施した。書籍の中でしか見ない名前の他大学教員からも講義を受けられてよかったという声を聞いている。４．学生とのコミュニケーション手段として、毎回、授業後には学生にはその日の授業の質問や感想などを書いて提出してもらった。そこで得られた学生の声は次回以降の授業に可能な限り反映させるようにした。５．学生には毎回、授業後に、その日の学びと自身の気づきをまとめて書くようなコメントペーパー（Ａ４・1 枚程度）を課した。学生の中に、最初のころは短いまとめしか書いていなかったものが、最後の方には、Ａ４・2～3 枚程度書くようになった学生もおり、授業での成長が顕著にうかがえる。他にも、テーマによっては、まとめを 3～5 枚程度書くような学生もおり（これは学生の自由意志。教員としては、全回を通じてＡ４・1 枚程度のみは書くように指示した)、学生が自ら進んで学習をしている姿勢がうかがえた。
11. 実際の標本、各種動画や写真資料を多く授業に取り入れた。

Q15.ＦＤ活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル：1 件

C（Q16～Q18）：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい：　18（90%）　　2.いいえ：　2（10%）　　未回答：　0（%）

＜Q16 で「はい」の方は Q17～18 にお答えください＞

Q17.下記のどの点を重視しましたか。（複数回答可）

1.聞いて理解する：　11（61%）

2.読んで理解する：　8（44%）

3.自分の考えをまとめて話す：　10（56%）

4.自分の考えを文章にまとめる：　13（72%）

5.討論する：　9（50%）

6.皆の前でプレゼンテーションする：　12（67%）

7.その他：　2（11%）

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答：8 クラス（順不同）

1. 欠く学生の身近な地域の文化に関するレポートを書いて提出してもらい，それを全学生に公開して，全学生からコメントや評価を求めた。いろんな地域の興味深い話があって，学生も見て読んで楽しく学修できたと思う。
2. 資料調査、グループワーク、レジュメ作成、プレゼン、ディスカッション、レポート作成を取り込んで実施した。
3. グループワークに司会進行や書記などの役割分担をさせることで、自覚を持たせ積極的なグループワークへの参加を促した。そのことで、深い議論に発展しコミュニケーションを図る場を増やす、質を高めることでコミュニケーション能力の育成に貢献できたと考える。
4. 学力に関わる諸論考をグループごとに割り振り、要約させたうえでその背後にある子ども観・青年観を推察させ、発表させた。
5. 問 14 に詳述した。
6. クラスでの質疑応答、小グループによるディスカッション、ビブリオバトル、ディベート、小テストにおける自由記述問題、日本語表現の指導、レポートの書き方に関する指導、レポートによる定期試験、レポートのピアレビューなど。
7. オンライン講義の中で、ブレイクアウト・セッションによる少人数でのディスカッションを何度か試みたが、システム上の制約でディスカッションを十分にフォローすることは難しかった。
8. グループ学習により発表スライドを作成し、グループ全員での発表。

D（Q19～Q22）：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい：　14（70%）　　2.いいえ：　5（25%）　　未回答：　1（5%）

＜Q19 で「はい」の方は Q20～Q22 にお答えください＞

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.１回～５回：　9（64%）　　2.６回～１０回：　3（21%）　　3.１１回～１５回：　2（14%）

未回答：　0（0%）

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。（複数回答可）

1.歴史・文化：　7（50%）　　2.政治・経済・産業：　6（43%）

3.自然環境・フィールド体験：　6（43%）　　4.その他：　3（21%）

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。　回答：6 クラス（順不同）

1. 宮崎県を事例に酒と魚料理という食の基本に見る地域性と，それらが地域的の展開する歴史的，自然的，経済的背景に関する解説を行うことで，地域を見る目を養う。さらに，学生の身近な地域における文化を研究発表することで，養った目を実際に活かす取り組みを行い，教育的研究的成果が得られた。
2. 地域の都市について、歴史・文化の面と文化遺産保護政策の観点から、また、自然環境について、外所地震や霧島山噴火の災害の面と災害伝承の観点から取り上げた。
3. 宮崎のデータを踏まえて地域の課題解決を考えさせた。（一部のグループ）
4. 高原町の一般社団法人「地球のへそ」の活動を紹介した。
5. 国際協力と地域との関わりについて、様々な切り口から事例を紹介した。
   ①地域での課題解決の経験を世界の課題解決に展開した事例（高千穂の鉱害対策からアジアの地下水ヒ素汚染対策へ）　②国際協力を通じて地域の課題解決に直接貢献している事例（バングラデシュ ICT エンジニア人材の宮崎への導入）　③地域の民間企業による国際協力を通じた途上国ビジネス展開の事例（ケニア国 e-learning）
6. 地域で見られる多言語表示を自ら探して写真を撮影し提出するように指示した。授業ではそれらをすべて教員が紹介し、それらが意味することを説明したり、また、学生同士で議論するようにした。

E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全 15 回の授業で 3 回取り入れた場合（1 回の授業における割合は問いません）　→　20%

1.0%：　2（10%）　　2.10%以内：　0（0%）　　3.10%～20%：　1（5%）

4.21%～30%：　3（15%）　　5.31%～40%：　1（5%）　　6.41%～50%：　0（0%）

7.51%～60%：　0（0%）　　8.61%～70%：　1（5%）　　9.71%～80%：　1（5%）

10.81%～90%：　4（20%）　　11.91%～100%：　6（30%）

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。**（複数チェック可）**

1.少人数（１０人程度）：　3（17%）　2.双方向（対話・討論）：　13（72%）

3.グループワーク：　13（72%）　4.フィールド型：　1（6%）　5.メディア活用：　10（56%）

6.TA 活用：　1（6%）　7.その他：　2（11%）

F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。**（複数チェック可）**

1.授業を英語のみで行っている：　0（0%）

2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている：　2（10%）

3.英語のみで板書している：　0（0%）

4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している：　6（30%）

5.英語のみの教材・資料を使用している：　1（5%）

6.一部英語併記の教材・資料を使用している：　4（20%）

7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している：　0（0%）

8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している：　1（5%）

9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している：　0（0%）

10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している：　0（0%）

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R2　後期（学士力発展科目）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育自己点検・評価専門委員会

以下、各選択肢の右に**該当クラス数（全回答数に対する回答率）**を記します。

A　(Q1～Q10)：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の１～４のうち該当する数字を選んでください。　【1.あてはまる　2.ややあてはまる　3.あまりあてはまらない　4.あてはまらない】

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1.　43(64%)　　2.　24(35%)　　3.　0(0%)　　4. 1 (1%)　　未回答　0(0%)

Q2.学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1.　35(51%)　　2.　33(49%)　　3.　0(0%)　　4.　0(0%)　　未回答　0(0%)

Q3.話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1.　28(41%)　　2.　38(57%)　　3.　1(1%)　　4.　1(1%)　　未回答　0(0%)

Q4.重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1.　41(61%)　　2.　26(38%)　　3.　1(1%)　　4.　0(0%)　　未回答　0(0%)

Q5.学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1.　29(43%)　　2.　36(53%)　　3.　2(3%)　　4.　0(0%)　　未回答　1(1%)

Q6.受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1.　36(53%)　　2.　29(43%)　　3.　2(3%)　　4.　1(1%)　　未回答　0(0%)

Q7.受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1.　30(44%)　　2.　29(43%)　　3.　5(7%)　　4.　4(6%)　　未回答　0(0%)

Q8.授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1.　30(44%)　　2.　29(43%)　　3.　6(9%)　　4.　2(3%)　　未回答　1(1%)

Q9.総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1.　26(38%)　　2.　42(62%)　　3.　0(0%)　　4.　0(0%)　　未回答　0(0%)

Q10.シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1.　30(44%)　　2.　38(56%)　　3.　0(0%)　　4.　0(0%)　　未回答　0(0%)

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R2　後期（学士力発展科目）

B（Q11.～Q15）：ＦＤ活動についてお尋ねします。

Q11. この授業科目に関してこの１年間に取り組んだＦＤ活動を選んでください。（複数回答可）

1.他教員の授業参観：　17（25%）

2.学内外のＦＤ講演会等への参加：　50（74%）

3.他大学のＦＤ活動の視察：　15（22%）

4.その他：　20（29%）

Q12.今後取り組もうと考えているＦＤ活動を選んでください。（複数回答可）

1.他教員の授業参観：　32（47%）

2.学内外のＦＤ講演会等への参加：　43（63%）

3.他大学のＦＤ活動の視察：　26（38%）

4.その他：　11（16%）

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答：28 クラス（順不同）

1. 授業の出欠において遅刻を厳格に記録したこと。定期試験のレポートの書き直しを 2 回に増やしたこと。レポートのピアレビューにルーブリックを採用したこと。レポートのピアレビューでのコメントを執筆者へ送ることにしたこと。
2. 昨年同様、学生の反応を見ながら、進度、レベルなどを調整した。（４クラス）
3. 「金融理リテラシー講座」は、宮崎金融広報委員会の寄付講座であり、特に 3 回の「基調講演」では同友会代表や県総合政策部長などのゲストの授業をオンデマンド配信した。「まちなかキャンパス」の予約・授業動画撮影・ゲストの感染防止・配布資料の調整・動画と資料のアップロードなど例年にない莫大な作業を伴った。
   アシスタントの設定という臨時措置について基礎教育に感謝いたします。まちなかでの感染防止では施設課に感謝します。授業の運営では県金融広報委員会のご尽力に感謝します。これらが無ければ絶対にできない状況でした。
4. 昨年まで胡屋教員だけの授業であった。ここ 3 年来、コラボで授業を行なおうという相談をしていた。COVID-19 感染拡大下の遠隔授業ではあったが、二人の教員の異なった特性とテーマ選択は、おそらく極めて有効であったと思う。日本がアメリカや中国・ASEAN 諸国のみならず、欧州連合から何を学びとるかについて、これまでの常識を超える視点と工夫ができたと言える。
5. 今年度は、オンラインになって受講者数が多く、また、昨年度は 2 回を話した内容を 1 回にまとめたので、なるべくわかりやすくなるように心がけた。
6. 対面授業の昨年度に対し、今年度はオンデマンド形式のオンライン授業だったことから、時間の関係で授業で話せなかった内容等を効率よく授業動画に盛り込むことができた。授業の内容を学生に流す前に事前確認し、追加・補充等ができた。授業全体の流れがシステム化することで、出席、各種指示、課題提出及び確認、試験等が体系的に操作でき、効率の良い授業が行えた。（３クラス）
7. チームとしての評価だけでなく、個人としての技能評価を積極的に取り入れた。
8. 統計情報の更新や最新の関連トピックを盛り込み、講義資料や教材の更新を行った。
9. 見学学習先との事前打ち合わせを十分に実施し、学生の見学研修が円滑かつ効果的になるようにした。
10. 学生からのアンケート内容を基に、講義内容を変更した。また、講義の最後にミニテストを課し、重要なポイントが分かりやすいように変更した。

11. 昨年度の評価というよりも、コロナ対応、遠隔対応での試行錯誤を行った。
12. 科目のコンテンツについて、２コマ分を新しく更新した。
13. 科目のねらいに合わせて教育内容と構成を検討して、新しい内容の追加、配信講義での情報量の検討を行い、授業計画を修正した。
14. 学生のコメントや要望を踏まえて、対話型の授業内容（ワークショップ、ブレインストーミング等）を増やした。
15. 昨年度も担当したが、昨年度までの対面授業と今年度の遠隔授業では全く異なるので、改善と言われても比較しにくい。しかし、文章での説明は声による説明と違って、消えることがないので、学生には復習しやすかった面は大きいと思う。試験前の準備学習にもノートを見るより役立っただろうと思う。
16. 受講者が少ないので十分わかりやすい指導ができた。
17. 主要な活動の一つである、科学英語のリーディングについて、学生が自分で素材を選べる形にし、よりアクティブラーニングに近い形で実施した。
18. 昨年度と違い、今回は、コロナ渦の中で、動画を多用することで学生のモチベーションを維持するよう心掛けました。
19. 基礎レベルの英語クラスのため、文法に関する丁寧な説明を行い、また学生の提出物にこまめなフィードバックを行った。
20. 個々の課題の目標が明確に学生に伝わった。
21. 今回は,コロナ渦の中で、前回と違い Online 授業でしたので、WebClass での問題出題でした。小テストというよりは、満点を取るまで問題を解かせることにしました。Vocabulary Practice, Feedback,本文の日英・英日練習と動画を利用して練習機会を増やしましたのでそれなりに評価しました。
22. 遠隔授業のための TOEIC の教材を新たに作成し、TOEIC のスコアが評価の半分を占めるこのクラスのニーズにより合致することができたと思われる。
23. 対面授業の昨年度に対し、今年度はオンデマンド形式のオンライン授業だったことから、時間の関係で授業で話せなかった内容等を効率よく授業動画に盛り込むことができた。授業の内容を学生に流す前に事前確認し、追加・補充等ができた。授業全体の流れがシステム化することで、出席、各種指示、課題提出及び確認、試験等が体系的に操作でき、効率の良い授業が行えた。

■参考■

・今年度は不測の遠隔講義だったので、比較評価できない。

・今年度は不測の遠隔講義だったので、比較評価は困難。

・今年度は、新型コロナウイルスの影響もあり、十分な授業が行えなかったので、来年度はより工夫した授業を考案していきたい。

・昨年度は対面授業、今年度は遠隔授業だったためアプローチが全く異なった。

・昨年度とは状況が違いすぎるので、改善というよりも全く新しい科目を実施したような印象。

・always improving details　（常に細かな改善に努めている。）

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このＦＤ活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。　回答：40 クラス（順不同）

1. 効果的な学習のふり返り、学習のふり返りによる学期の学習全体の活性化、文章表現力において向上が認められる。
2. 以下の点を評価したい。１．オンラインによる学部をまたぐ授業であることから、1 回目の課題として自己紹介 PPT を作成させ、2 回目にはそれを使って全員が自己紹介した。そのことでクラスメートとの距離感が少し縮まったと思われる。少人数だったこともあり、時々は顔を出して意見交換などを実施した。２．学生が発表をした際には、ピアレビューを取り入れ、評価するために責任をもって聞くように促した。３．学生とのコミュニケーション手段として、毎回、授業後には学生にはその日の授業の質問や感想などをアンケート形式で書いて提出してもらった。そこで得られた学生の声は次回以降の授業に可能な限り反映させるようにした。４．発表などがなく受け身的な受講になりがちな日には、学生には授業後にその日の学びや自身の気づきなどをまとめて書くようなコメントペーパー（Ａ４・1 枚程度）を課した。
3. Met student needs and expectations.　Negatively affected by covid-19 preventative measure interruptions.（学生のニーズと期待に応えた。コロナの予防措置での中断による悪影響があった。）（３クラス）
4. 最新のトピックスを紹介し、学生が社会・経済情勢の動きを知ることができるよう努力した。また、リアルタイム型講義とオンデマンド型講義を組み合わせ、学生が自主学修につなげられるよう工夫した。
5. 遠隔授業である利点を生かした大人数で意見や価値観の違いを共有できる授業を行い、多角的視点を学ぶ工夫をした。
6. 遠隔講義は半年やって慣れたので、来年度は過不足なくできる。（２クラス）
7. 資料を事前に WebClass 上にアップロードし、予習を可能にした。また、オンライン型・オンデマンド型授業を双方取り入れて講義を行っている。最新の情報を学生に伝えるよう努力しており、質問への回答は学生からの評価が高いと考えられる。
8. zoom を使用する際に学生側のカメラのオンオフについて適切な指示が必要であった。
9. 問 13 の回答に同じ
10. 退職ではあるが、本当は更に胡屋氏の努力に応えてこの授業を改善したかった。
11. 取り上げたテーマについて 1 回分の授業でコンパクトに学べるようにしたことは評価できる。一方、1 回分ゆえに、詰め込んでしまった部分もあるかもしれない。特に、オンラインによるオンデマンド受講となったことから、学生にはどうしても単調に聞こえたのではないかと考えている。
12. 時代や社会情勢などによって変動する授業内容であることから、昨年度の内容を踏まえ、更なる調査や資料収集を行った上で授業動画を作成している。この科目では初めてのオンライン授業だったので時間配分がうまくできなかった。この点は来年度の授業では改善していきたい。
13. 問 4 に「分かり易く」とあるが、分かり易くすることが必ずしも学生のためになるとは言えない。特に数学では難しい概念などを学生自身に考えさせる機会を与えることが重要である。そのため、自分の授業では全てを説明するのではなく、あえて説明を省く部分を取り入れた。また、学生の関心を惹きつけるために、懸賞問題に関わる話題等を授業の内容と関連させて取り入れた。反省すべき点は、動画撮影の際の板書が部分的に見づらくなっていたことであり、この点については次年度以降改善したい。
14. 評価できる点：理系・文系ともに理解しやすいテーマと、融合を意識した内容を検討した。反省すべき点：コロナ対応で全て遠隔授業で実施したが、特定の受講生の通信デバイス環境で動画が完全に見られない状況が発生していた。動画の配信を工夫する必要があった。

15. 信用金庫、生命保険、製造業（自動車産業）、システム開発会社による、日本と地域のデジタルトランスフォーメーション（DX）をそれぞれ報告する形の寄付講座。全体の連関を付すのに苦労した。以下、最終回のシステム開発会社（㈱デンサン）による,「DX」と「社会経済の変貌」と「企業の地域貢献」と「学生への担い手意識をもった呼びかけ」の合体した象徴的なスライドをアップする。（Q15 にファイルを添付）
16. すべて遠隔授業だったので、学生の反応を見るのが難しかった。
17. コロナ感染症の影響により、リモート（zoom とストリーミングのハイブリット）の講義スタイルであったが、講義後にメールによる質問が送られてきた。zoom によるリアルタイム講義の際には、学生との双方向でのやり取りももっと上手く試みてみるべきだった。ほとんどの学生は大勢の前では発言しないため、他の先生方はリモート講義でどのような試みをしているのか、ユニーク＆効率的な方法があればオープンにして頂けると助かります。
18. 緊急事態宣言に伴い、多くの時間が遠隔授業に変更になり、当初のシラバスに記載の内容を全うできなかった。学習効果を考えても、体育実技は対面での実施が望ましい。
19. 来年度は今年の経験（遠隔講義）が生かせると思う。
20. 地域実習を伴う科目のため実施の延期が重なり、まだ授業を実施途中でのアンケート回答である。3 月にもオンライン実習を実施する予定で、成績評価は３月の基礎教育再試験の成績提出時期まで待ってもらっている状態である。
21, 授業で用いているデータ・教材について、常に社会状況等で変わるため、自身の研究活動や社会貢献活動における実績や経験、データ収集等を反映して授業を実施し、学生にできるため最新のデータを伝えるよう考慮した。
22. 文章での教科書の説明が中心なので、解かり易い説明を心掛けて、ある程度成功したと思う。しかし、当初、Webclass の使用に慣れていないために、授業内容アップの仕方、出席管理の仕方等で、ミスもあった。次第に慣れて、出来るようになった。
23. 以下の５点を評価できる点として挙げておきたい。１．学習内容に応じてオンデマンドと同時双方向を組み合わせた。新出語句の発音練習などは一緒に行ってクラスとしての一体感を感じることができるようにし、他方、文法学習などは各自のペース・理解度で何度でも見直せるオンデマンド教材を活用するようにした。２．学生には毎回アンケートを課したが、授業内容に関する質問や感想、中国語学習についての疑問など、何でも書き込めるような雰囲気のものにした。出された質問に対しては、翌週の授業教材などで回答を全員に伝えることでクラス全体で情報を共有することができた。３．ほぼ毎週、手書きのレポートを提出させ、それに対しては、教員がプリントアウトして書き込みをしてスキャンしたものを WebClass を通じて返却した。学生は自身が書き間違えた箇所などを各自確認できるようになって、双方向型の手厚い指導につながった。４．講義資料（動画、音声付き。ダウンロード可能。）は自身のペースで学習することができ、わからなければ何度でも繰り返してみることができるようにした。５．テスト前には教員が作成したテスト対策用練習問題に取り組めるようにした。（２クラス）
24. 以下の６点を評価できる点として挙げておきたい。１．基本的には同時双方向で授業を進めたが、講義を受け身的に聞くだけにならないよう、授業時間内に自分で考えて提出する作文課題などを課した。２．学生には毎回アンケートを課したが、授業内容に関する質問や感想、中国語学習についての疑問など、何でも書き込めるような雰囲気のものにした。出された質問に対しては、翌週の授業教材などで回答を全員に伝えることでクラス全体で情報を共有することができた。３．全授業回数の半数程度で手書きのレポートを提出させ、それに対しては、教員がプリントアウトして書き込みをしてスキャンしたものを WebClass を通じて返却した。学生は自身が書き間違えた箇所などを各自確認できるようになって、双方向型の手厚い指導につながった。４．講義資料はダウンロード・印刷可能で、授業後も自身のペースで学習することができるようにした。５．テスト前には教員が作成したテスト対策用練習問題に取り組めるようにした。６．学生が中国語により親しむことができるよう、学生が関心を持ちそうな内容の Youtube（簡易な中国語を使用）を紹介した。テーマは、宮崎と関連した情報についてのものや、歌いやすい歌（中国語版）である。歌詞カードなども作成して、学生が自分でも歌ってみたりできるようにした。

25. オンデマンド形式の授業は学生に高評価だったが、学生とのコミュニケーションをとりながらの授業ができなかった。掲示板はあまり役に立たない感じなので今後はチャットなど別の手段を工夫したいと思う。（２クラス）
26. オンデマンド形式の授業は学生に高評価だったが、学生とのコミュニケーションをとりながらの授業ができなかった。掲示板はあまり役に立たない感じなので今後はチャットなど別の手段を工夫したいと思う。
27. 「FD 活動レポートの対象となっている授業科目のみがリスト表示されます」と、説明がありましたが、学生評価の分も一緒に表示されるのは、見づらいです。（２クラス）
28. 基礎教育が全面的に遠隔授業となる中で、授業では毎回 Zoom ミーティングを行い、学習者とのコミュニケーションを図った。この点は、学生の学びへの姿勢の維持にもつながったと思う。（３クラス）
29. 学生の様子を、Log を通してしか垣間見ることができなかったのが、非常に残念です。次回は、Zoom を毎回ではなくても取り入れ双方向の授業を目指したいです。
30. Zoom と WebClass の機能を使って、様々な工夫を凝らし、学生の言語活動を促した。（２クラス）
31. 今年度の授業はすべて遠隔オンデマンドでした。来年度も遠隔授業でしたら、リアルタイムの Zoom なども何回か取り入れたいと思います。

Q15.ＦＤ活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル：2 件

C（Q16～Q18）：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい：　54（79%）　　2.いいえ：　14（21%）　　未回答：　0（0%）

＜Q16 で「はい」の方は Q17～18 にお答えください＞

Q17.下記のどの点を重視しましたか。（複数回答可）

1.聞いて理解する：　37（69%）
2.読んで理解する：　36（67%）
3.自分の考えをまとめて話す：　30（56%）
4.自分の考えを文章にまとめる：　33（61%）
5.討論する：　20（37%）
6.皆の前でプレゼンテーションする：　21（39%）
7.その他：　6（11%）

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答：20 クラス（順不同）

1. レポートのピアレビューをおこなっている。自分の考え、文章に対する他者の評価を知ることができ、自己相対化に効果が見られる。
2. ピアレビューをすることをあらかじめ伝えておき、作成や発表の際にその点に留意するように指導した。
3. マンガ『聲の形』を題材に、障害者とその周囲の人々の抱える困難について話し合った。
4. 毎回の授業＝講演に対してレポートを課し，必要なフィードバックを行なった。質問には可能な限り，回答（動画・音声ファイル）を行なった。最終回では授業の振り返りで，日銀佐藤氏の授業をお願いし，付加的に全体を通した質問を受け付けて，特別の回答の動画を作成して配信した。受講生 120 名でも「応答的環境」に金融広報委員会ともども尽力した。
5. 上掲の通りであるが，テーマはドイツ。ドイツ語を活用した教案の作成ではあるが，学生にはドイツ語を多用することはできなかった。ドイツの社会経済を説明するのに，欧州連合統計局（Eurostatt）をもっと使うと良い。これは IMF と並んで，英語ベースでの活用が可能だからだ。来年が無いのがもったいないと二人の教員で思っています。
6. 初回講義開始前に計 44 ページのプリントを渡し、これを読んで理解の助けになるようにした。
7. 設問に回答する形式で受講生自身の意見や新しい気付きを記述させレポートを提出させた。理解度を把握してコメントを付けて受講生に個別に返却した。
8. 私なりにずっと努力してきているつもりだが、本年度、システム開発会社（デンサン）による授業で、社会に出てどう生きていきたいか勤労を含めた「夢やビジョン」を書かせた。「金融リテラシー講座」も全く同様であるが、知識や手技（スキル）の習得と並んで、発達段階に応じて「すなおな気持ちで自分の夢やプランを書かせる」作業の重要性を学んだ気がする。これは学生の経済的自立・社会的自立のモチベーションを作ると思う。真剣に授業に参加してくれた信金・保険・医療・システム開発の皆さんに感謝しています。
9. 当科目は、体育の実技を主とした授業なので、スポーツを通して学生のチームワークや協調性を引き出すような取り組みを行った。とくに、バレーやサッカーなどの団体種目を行うことでそれらがみられた。
10. 経験者による「コツ」の共有と相互指導。
11. 本科目は、体育の実技であるため、スポーツを通して学生のチームワークや協調性を引き出すような取り組みを行った。とくに、バレーやサッカーなどの団体種目を行うことでそれらがみられた。
12. 学生に宿題として、ドイツ文の試訳を書かせる課題を出した。その解答例を次回授業で示し、自分の試訳との比較をさせて、適切な解釈ができるよう導いた。
13. 海外の英語クラスと英語のライティング（Moodle）とスピーキング（Zoom）によるオンライン協同学習や、科学英語のリーディングで読んだ内容を英語で発表するプレゼンテーションなどを行った。
14. 海外の英語クラスと英語のライティング（Moodle）とスピーキング（Zoom）によるオンライン協同学習を行った。
15. 本科目では「専門に関わる内容を英語で表現する機会を通して、英語を用いた「発信力」を養うことを目標」に、日本人学生が留学生に対し、英語でのプレゼンテーションとディスカッションを行った。

16. 留学生に向けて英語で交流することを最終目標に、英語でのプレゼンテーション作成に取り組んだ。殆どの学生が実際に英語を使って自分の考えを外国人に伝えることは初めての経験であり、日本人特有の「自分の意見を述べることに慣れていない」「発言することが恥ずかしい」状況の中で、留学生に自らの考えを英語でどう伝えるかを考え、準備を行い実践した。学習言語を実際に用いる機会の少ない学生にとって、教室を実際のコミュニケーションの場面に近づけることは、「国際化」する現代社会を実体験できる機会となった。
17. 遠隔授業でしたので、プレゼンテーションは事前に録画し WebClass にアップロードするように指示をしました。お互いのプレゼンテーションを聞き、コメントをしてもらいました。
18. 今回は、コロナ渦の中で、あまり人前で声を出さずに生活しておりますが、学生は、動画に合わせて単語の練習や、日本語を聞いて英語を読む、または英語を聞いて日本語で声を出してやる作業で、少しはストレス発散になったのではないでしょうか。また、Worksheet でのそれぞれのトピックについて英作文をしていただきました。
19. 海外の英語クラスと英語のライティングによるオンライン協同学習や、授業内での会話練習を行った。
20. 毎回の授業の課題は、書く練習だけでなく、読む練習にもなるように音声を録音させている。ドラマの台詞を実際演じてみるといった課題を通じて、発音や話すスピード、気持ちの込め方、流暢さなどの練習をしてもらった。

D（Q19～Q22）：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい：　26（38%）　　2.いいえ：　40（59%）　　未回答：　2（3%）

＜Q19 で「はい」の方は Q20～Q22 にお答えください＞

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.１回～５回：　15（58%）　　2.６回～１０回：　5（19%）　　3.１１回～１５回：　6（23%）

未回答：　0（0%）

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。（複数回答可）

1.歴史・文化：　17（65%）　　2.政治・経済・産業：　14（54%）

3.自然環境・フィールド体験：　9（35%）　　4.その他：　6（23%）

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。　　回答：10 クラス（順不同）

1. 寄付講座で金融リテラシーと地域を大所高所から見る「基調講演」とを組み合わせ、リテラシー調査を最終回に実施して効果測定を行なって、翌年度の改善につなげている。
2. 宮崎県の神話に関する内容を授業の冒頭に盛り込んだ。
3. 「現場」の更に悩みある中堅の人々が語りかける現場からの報告となった。Zoom 動画のライブ・オンデマンド配信、Chat を活用した遠隔グループ討論、Chat を使った学生のレポートへの講師による添削付きのフィードバック。私は ICT 不得意な講師を技術的に支援しつつ、皆さん本当によくやって下さったと思います。

4. 宮崎大学医学部附属病院における症例など、地域の中核的医療機関で実際に診療を行っている医師による講義を行った。
5. 実際に地域で行なわれているまちづくり活動や、建築・都市計画の視点から地域の状況を分析した研究成果の紹介。
6. 海外の大学の英語クラスと、地域の課題について英語でやり取りする協同学習を行った。（３クラス）
7. ライティング課題で、を英語での地元紹介をしていただきました。
8. 自己紹介文の中で、それぞれの地元を紹介していただきました。

E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全 15 回の授業で 3 回取り入れた場合（1 回の授業における割合は問いません）　→　20%

1.0%：　15（22%）　2.10%以内：　2（3%）　3.10%～20%：　2（3%）

4.21%～30%：　7（10%）　5.31%～40%：　10（15%）　6.41%～50%：　5（7%）

7.51%～60%：　3（4%）　8.61%～70%：　0（0%）　9.71%～80%：　4（6%）

10.81%～90%：　13（19%）　11.91%～100%：　6（9%）

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。**（複数チェック可）**

1.少人数（１０人程度）：　19（36%）　2.双方向（対話・討論）：　32（60%）

3.グループワーク：　23（43%）　4.フィールド型：　3（6%）　5.メディア活用：　34（64%）

6.TA 活用：　2（4%）　7.その他：　9（17%）

F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。**（複数チェック可）**

1.授業を英語のみで行っている：　3（4%）

2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている：　22（32%）

3.英語のみで板書している：　5（7%）

4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している：　23（34%）

5.英語のみの教材・資料を使用している：　12（18%）

6.一部英語併記の教材・資料を使用している：　25（37%）

7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している：　11（16%）

8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している：　7（10%）

9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している：　18（27%）

10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している：　9（13%）